

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	ステージアプローチに基づく認知症グループホーム入居者の経過シートの作成 —長期経過の把握と終末期の意思決定プロセスを支える—
日時	平成 25 年 3 月 31 日 11 : 10~11 : 20
会場	第 8 会議室
座長	坂の上ファミリークリニック 小野宏志先生
演者	あおぞら診療所 向後 裕美子先生
企画趣旨	<p>高齢化と核家族化が進む中、今後の日本において、認知症患者の生活の場としてのグループホームの果たす役割はますます拡大していくものと考えられる。多くの認知症患者は、症状が緩やかに進行し、終末期には摂食など生命維持に必要な行為まで障害されていく。この長期にわたる経過の中で、初期から終末期までの各段階を的確に捉え、適切な介入を行うために、ステージアプローチが有効であるとされている。終末期には、栄養補給や急変時の対応など重大な意思決定が必要となる。本来であれば入居者本人の意向が最も尊重されるべきであるが、身体状態に先行して認知機能が障害される認知症患者の場合には、家族が意思決定の中心的役割を担うことが多い。そのため、入居者個人への理解を通して可能な限り意向を推測し、家族の意思確認を十分に行い、アドバンスケアプランを作成しておくことが必須といえる。</p> <p>ところが、グループホーム入居後、頻繁に面会に訪れない家族の場合、患者の状態を実感を持って認識することが難しくなる。そのため、終末期を迎えつつある事実を家族が受け入れることが困難となるケースが、当院においても多く経験された。そこで、家族を含む関係者が患者の状態を直観的に把握し共有できるように支援するためのツールとして、ステージアプローチに基づいて患者ごとの情報を視覚的にまとめた経過シートを開発したので報告する。</p> <p>経過シートの開発にあたり、まず在宅医療に従事する複数の医師が参加する会議で、必要な項目の検討、フォーマットの作成、実際の患者情報を用いたシートの試作を行った。さらに、看護師など多職種を含めたカンファレンスで討論を経て改訂を重ね、実用化にいたった。シートの中核には、Functional Assessment Staging (FAST)をベースとした認知症の進行と投薬状況を視覚的に示す図を据え、図中に各時期の病状に影響を与えた出来事などを書き込めるようにした(右図)。さらに、入居者の ADL を一目で捉えられる写真、家族との面談のサマリー、介護職から聞き取った入居者の人となりを書き込む項目を作成し、A4 両面のシート 1 枚で、入居者の長期的経過と現状を把握できるようにした。本報告では、このシートの作成の過程を呈示し、活用の状況を紹介する。</p>

